



藤川保育園最後の卒園式

冬の寒さに別れを告げ、桜の花がほころび始めた3月27日。町立藤川保育園の最後の卒園式が挙行されました。

今年度の卒園児は5人。「卒園児入場」の声とともに元氣いっぱいに入場した卒園児たちは保護者、来賓の大きな拍手に迎えられました。

りんとした表情でまっすぐに前を向き、背筋を伸ばして座る5人の姿は、さすが年長児の風格です。

保育証書授与の場面では、一人一人が名前を呼ばれ、壇上で胸を張って「ありがとうございました」と、卒園の証書を受け取りました。

来賓として出席した小藪議員は「みんなが保育証書を受け取る姿がとても誇らしげで、それぞれの子が園生活の中で色々な約束ごとを学び、立派に過ごしてきたことが良く分かりました。この藤川保育園で遊んで、歌って、走り回って、お話を聞いたり、遠足に出かけたりと、楽しい思い出

をいっぱいつくったことだと思います。この良い思い出を大切に心にしまっておいて、元氣な小学生になってください。みんなの健やかな成長を願っています」と卒園児に向け祝福のメッセージを贈りました。

涙誘うわかれのとき

式典に引き続き行われた園児と保護者による「わかれのつどい」では、卒園児から保護者に向けて、感謝の気持ちを込めた「歌」が贈られました。

どの保護者もハンカチ片手に涙をぬぐいながら、大きくたくましくなった我が子の歌声に聞き入っていました。

そのあと、卒園児一人一人が将来の夢を発表しました。

「飛行機を操縦する人になりたい」、「テレビにでるお姉さんになりたい」など、涙で顔をクシャクシャにしながら発表する子どもの姿が、また、さらに保護者の涙を誘っていました。

つどいの最後、卒園児退場の場面では、先生や保護者た

みんなで笑って
みんなで泣いた
みんなこのときが
ずっと続くと思ってた



ちが手でアーチトンネルをつくり、卒園児を見送りました。(今号表紙写真)

卒園児5人とその保護者は、桜の花に負けないほどの満開の笑顔でアーチトンネルをくぐり抜け、晴れて卒園のときを迎えました。



保護者代表の小田邦彦さんが卒園児にはなむけのメッセージ

「卒園児のみんなは、小学校で新しい友だちができるかな?とか、小学校ってどんなところなのか?とか、心配もたくさんあると思います。でもだいじょうぶ。ここ藤川保育園で先生方に教わったことや、友だちと協力したことなど、ここで過ごした時間すべてがみんなの力になって、これからの小学校生活に役立っていきます。4月から、みんな元氣良く小学校に通ってください。私たち保護者も、これから子どもに対して、自分で考えて行動できる子になれるよう背中をそっと押してあげたい。そんな気持ちで温かく子どもを見守っていきたいと思います」と、涙ながらにメッセージを贈りました。

